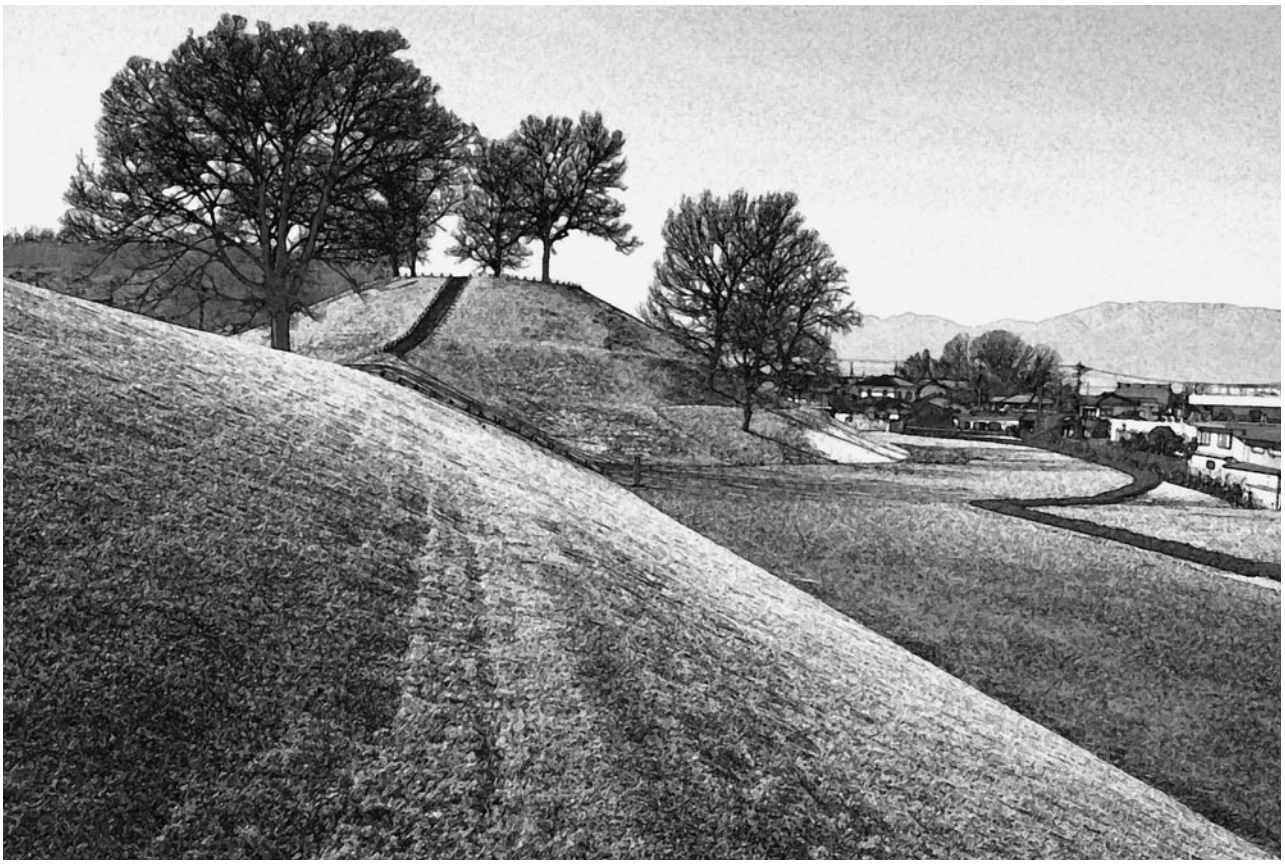
国指定史跡

銚子塚古墳附丸山塚古墳

―保存修理事業報告書―



2006. 3

山梨県教育委員会

序

本書は、平成 17 年度に実施したところの、国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳の保存修理（環境整備）事業の報告書であります。

銚子塚古墳は昭和 3 年、偶然の機会により石室と多くの副葬品が発見されました。石室発見から 2 年後の昭和 5 年には、隣接する丸山塚古墳とともに国史跡に指定され、昭和 49 年からは、史跡周辺を「甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園」として整備と活用が進められています。

整備のため昭和 58 ～ 60 年に実施された発掘調査を基礎として、昭和 61 年から丸山塚古墳を含めて史跡整備工事が開始され、昭和 63 年には銚子塚古墳の後円部周溝の一部を除き整備をほぼ完了いたしました。しかし、後円部周辺には民有地が残存し、古墳を全周して見学することが不可能な状態でありました。そこで、公有地化をさらに進め、平成 16 年度までに周溝部に該当する箇所の公有地化をほぼ完了しました。

括れ部北側や後円部西側については、平成 13 年度に山梨県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施し、後円部西側の墳丘端部を確認いたしました。また平成 16 年度には、後円部西側から北側と前方部周溝の北側の発掘調査を実施し、木柱や円形木製品などの出土、突出部・周溝区画堤の確認といった成果が得られました。

これらの調査結果を受け、平成 17 年度に、昭和 58 年度から実施された第 1 次整備事業の方針に従い墳丘へ盛土・芝貼り、周溝内への玉砂利敷きなど保存修理事業を行いました。

発掘調査成果にもとづいた保存修理により、銚子塚古墳が地域の歴史解明や地域学習の糧となり、風土記の丘・曽根丘陵公園を訪れる県内外の皆様に親しまれることを期待いたします。

最後となりましたが、今回の銚子塚古墳の保存修理事業に様々なご協力をいただきました機関および関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成 18 年 3 月

山梨県埋蔵文化財センター
所　長　渡　辺　　誠

例　　言

1．本書『国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳－保存修理事業報告書－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第239集は、山梨県甲府市下曽根町字山本に所在する国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳の保存修理（環境整備）事業の報告書である（国指定史跡現状変更許可番号：17委庁財大4の991号および1541号）。なお、今回の整備は銚子塚古墳に限定されるものである。

2．本保存修理（環境整備）事業は、国庫補助をうけて平成17年10月3日～平成18年2月28日に実施した。

3．本書の執筆・編集は山梨県埋蔵文化財センターの村石眞澄・芦澤昌弘・代永智恵・上野桜が担当した。

4．本書に掲載した今回の整備状況の写真は主に担当者が撮影した。

5．保存修理及び報告書作成にあたっては下記の組織・個人からご助言・ご協力を賜った。ご芳名を記し、深く感謝申し上げる。

組　織

山梨県土木部、中道町役場、中道町教育委員会

個　人（敬称略）

大塚初重・谷口一夫・田畑貞寿・荻原賢英・萩原福栄・宮沢幸洋

6．保存修理に係る組織は以下のとおりである。

事業主体　　山梨県教育委員会
　　山梨県土木部峡東地域振興局
　　山梨県埋蔵文化財センター

目　　次

序
例言
あらまし
巻頭カラー図版
第１章　銚子塚古墳の概要 …… 1
第２章　保存修理の経緯と経過 …… 3
第３章　平成 17 年度の保存整備工事 …… 5
銚子塚古墳の保存修理計画図…… 7
後円部墳丘の整備…… 11
後円部南西部の整備…… 12
縁石の設置…… 13
芝　貼　り…… 14
周溝の玉砂利敷き…… 15
後円部北部の突出部…… 16
植　　栽…… 17
整備前の水路…… 18
周溝中央のＵ字溝設置…… 19
外側のＵ字溝設置…… 20
西側水路…… 21
周溝北西部の整備…… 22
小水路の整備…… 23
車止め設置他…… 24
工事図面…… 25
おわりに…… 33
報告書抄録

2005.8.19　着手前の様子

2005.11.18　周溝中央のＵ字溝設置

2006.1.25　周溝の砕石敷き均し

2006.2.9　仕上がりに薄らと雪化粧

あらまし

この報告書は、平成 17 年度に実施した国指定史跡銚子塚古墳の保存修理事業の内容をまとめたものです。

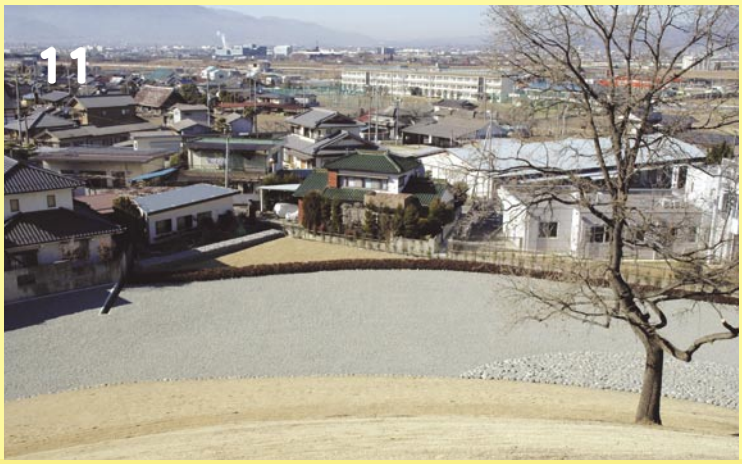
すでに、昭和 58 から 62 年度にかけて保存のための整備が行われています。今回の事業は、地域の方々からご協力をいただき、宅地などの買収を進め、その後発掘調査を行った後円部周辺を対象とした 2 度目の保存整備事業となります。

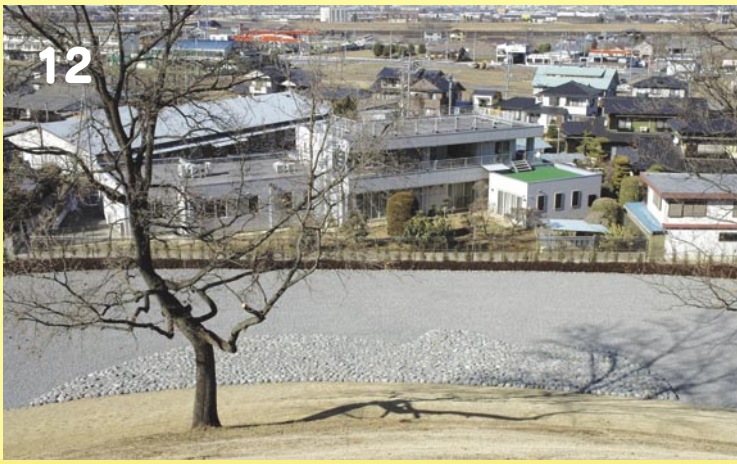
基本的な方針は、先の整備事業の方法に従い、最新の発掘調査成果を盛り込んでいます。具体的には、北側から西側の墳丘部分は風雨にさらされ崩れたり、後世削られた部分に盛土を行い築造当時の姿に近づけ、その保護のために芝生を貼りました。また墳丘の回りの周溝は、砕石を敷いた上に、玉砂利を敷き、築造当時には堀に囲まれていた様子を表現しています。また東日本の前期古墳では､初めて確認された「突出部」は、祭祀の場と考えられるものであり、玉砂利敷きの上に大礫を敷き詰めて表現しています。

この保存修理事業により、銚子塚古墳をぐるりとひと回りして見学できるようになりました。ぜひ散策しながら、4 世紀後半の東日本では、最大級の銚子塚古墳がなぜここに造られたのか、太古の甲斐の歴史へ思いをめぐらせに訪れてください。

H17年度　銚子塚古墳の

保存修理の景観写真





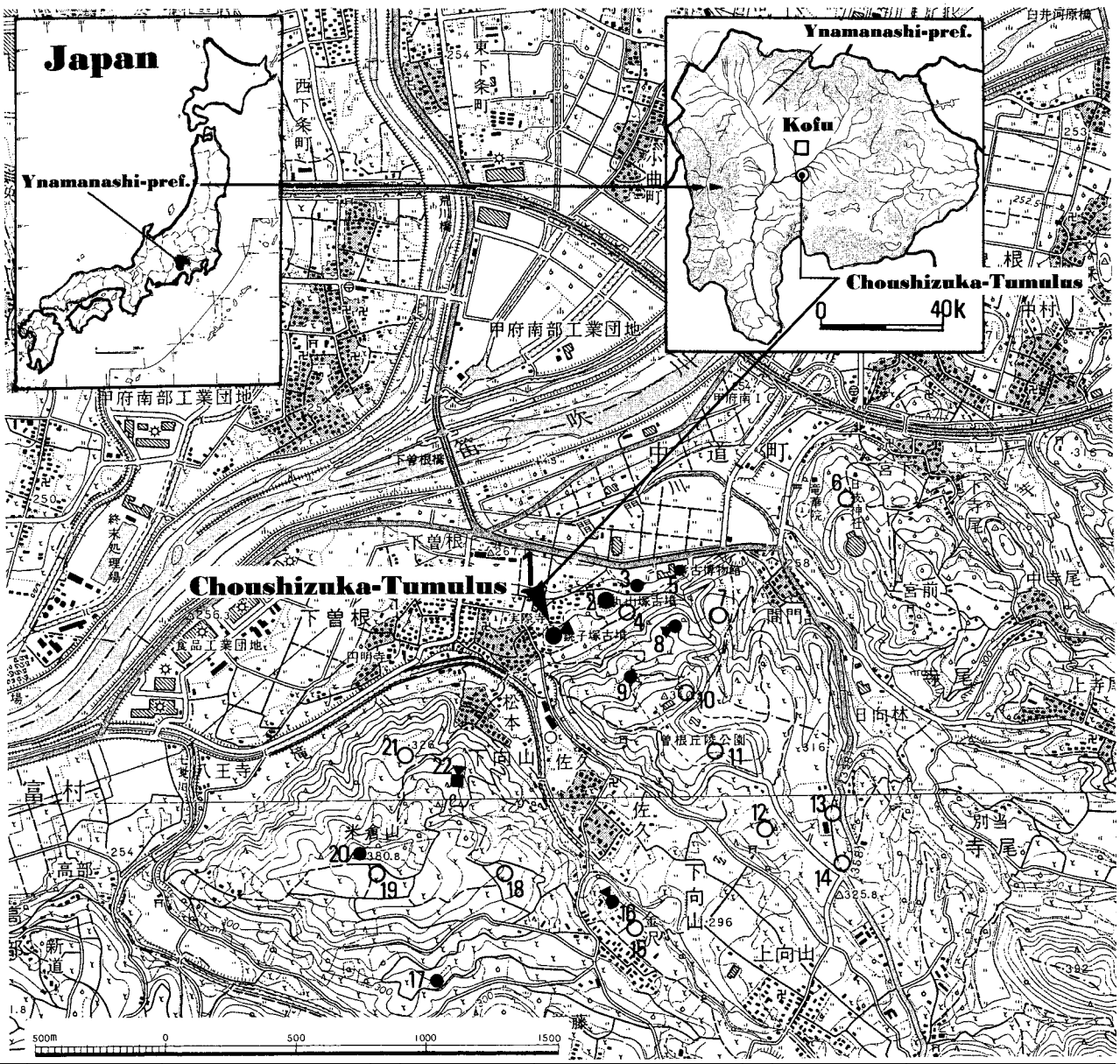
平成 13 年度の発掘調査時の空中写真

第１章　銚子塚古墳の概要

第１節　銚子塚古墳をとりまく環境

銚子塚古墳は、日本列島中央部、甲府盆地の南東縁域に位置する。甲府盆地南東縁域には、北東から南西へ向かって流れる笛吹川があり、その左岸には東西方向約 12 ㎞におよぶ曽根丘陵が広がっている。丘陵の背後には御坂山塊が同じく東西方向に延び、さらに南方に富士山が控える地形となっている。銚子塚古墳は、笛吹川左岸の沖積地と丘陵前面の北向き緩斜面との接点となる標高 265 ～ 257 m付近に位置する。

銚子塚古墳の位置する東山周辺は、弥生時代後期から古墳時代に至る時期の墳墓関連遺跡が集中的に分布している。代表的な遺跡としては、上の平遺跡の方形周溝墓群、小平沢古墳（全長 45 mの前方後方墳）、銚子塚古墳に隣接する丸山塚古墳（直径 72 mの円墳）、大丸山古墳（全長 120 mの前方後円墳）、天神山古墳（全長 132 mの前方後円墳）、



1	銚子塚古墳	4c 後葉･前方後円墳･ 169 m	9	稲荷塚古墳	7c ･円墳･ 20 m･銅碗	17	くちゃあ塚古墳	7c ･円墳･ 10 m
2	丸山塚古墳	5c 前葉･円墳･ 72 m	10	東山南古墳	弥生～古墳･円形周溝墓	18	米倉山Ｂ遺跡	弥生～古墳･方形周溝墓･集落
3	かんかん塚（茶塚）古墳	5c 後半･円墳･ 20 ～ 25 m	11	上の平遺跡	弥生～古墳･方形周溝墓 126 基	19	菖蒲池遺跡	弥生中期～古墳
4	石清水遺跡	5c 後半･円形周溝墓 3 基	12	宮ノ上遺跡	弥生～古墳･方形周溝墓･集落	20	米倉山無名墳古墳	古墳後期･円墳
5	考古博物館構内古墳	6c 前半･円墳･ 15 m	13	熊久保遺跡	弥生～古墳･集落	21	女沢遺跡	弥生
6	朝日古墳	弥生～古墳･方形周溝墓	14	立石遺跡	旧石器	22	小平沢古墳	4c 中葉･前方後円墳･ 45 m
7	東山北古墳	4c 後半･方形周溝墓･ 36 m	15	金沢天神遺跡	縄文～古墳	※本図のドットマークは遺跡の規模･形状とは合致しない。		
8	大丸山古墳	前方後円墳･ 99 ～ 120 m	16	天神山遺跡	5c 中･前方後円墳･ 132 m	※本図は周辺の遺跡すべてをドットしたものではない。		

第１図　銚子塚古墳の位置と周辺の遺跡

東山北遺跡の 4 世紀の方形周溝墓（30 m級）、5 世紀のかんかん塚（茶塚）古墳、5 世紀の東山南遺跡や岩清水遺跡の円形低墳丘墓などがある。

この東山周辺は、静岡県から甲府盆地に至る中道往還（現国道 358 号）が通っており、太平洋側から甲府盆地に至る最短の古道であり、銚子塚古墳はこの古道が甲府盆地に接続する地域にあたっている。

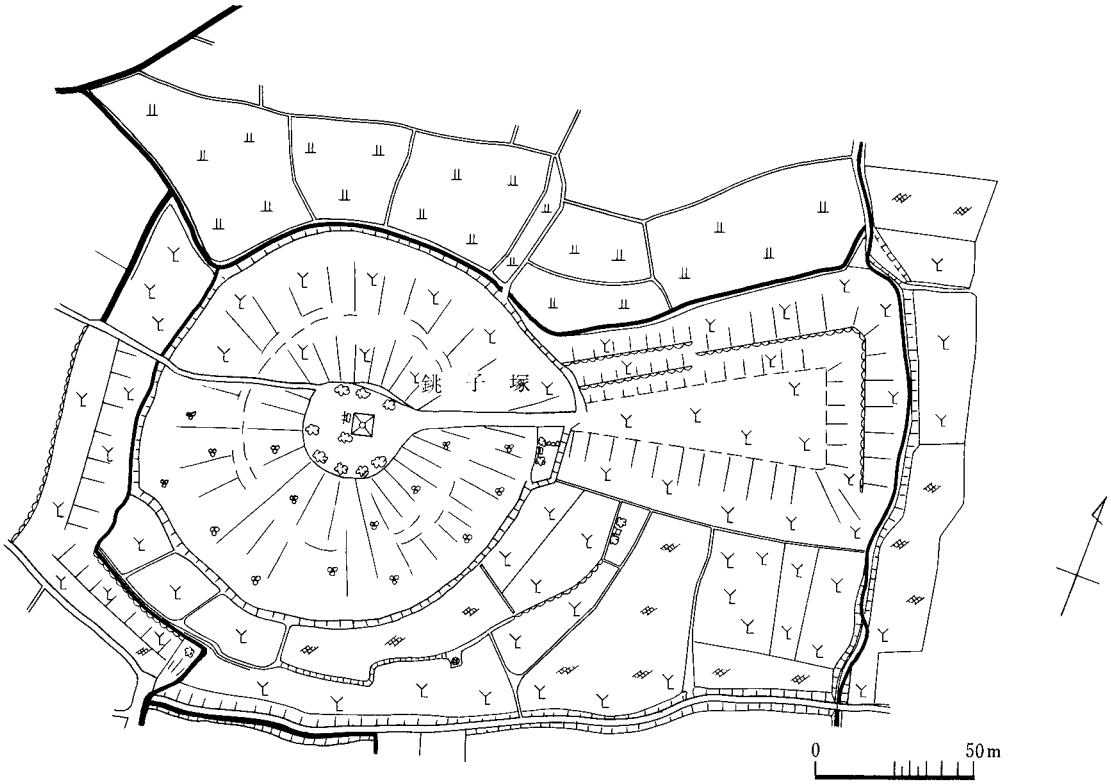
こうした地理的環境に加えて、弥生時代から営まれてきた伝統的な墳墓である方形周溝墓群と、4 世紀後半では東日本で最大規模を有し、かつ畿内的色彩の濃い銚子塚古墳などが近接して存在しており、これらの関連性を検討した首長系譜論などに多くの研究成果があり、中部日本の古墳時代研究上で非常に重要な地域となっている。

第 2 節　銚子塚古墳の概要

銚子塚古墳の墳丘は前方後円墳であり、前方部を東に向ける。墳丘規模は、全長 169 m、後円部直径 92 m、後円部高 15 m、前方部幅 68 m、前方部高 8.5 mであり、前方部先端が剣先状に突出する特異な平面形となっている。墳丘には葺石が施され、後円部が三段築成、前方部が二段築成である。墳丘部には埴輪樹立が確認されており、川西編年 II 期の円筒埴輪、朝顔形埴輪、壺形埴輪、囲形埴輪が出土し、スカシ孔には巴形･三角形･長方形が確認されている。周溝は墳丘と相似形の前方後円形であり、15 ～ 25 mの幅をもつ。周溝からはこれまでにＳ字状口縁台付甕、有孔円盤状木製品、刀剣状木製品、笠形木製品の一部と考えられる円形木製品、棒状の火鑽板、ヘラ状木製品などが出土している。また、後円部西側の墳端で、直立して埋設されていた木柱（直径 20cm、残存長 90cm）を発見している。後円部北側では、墳端から周溝内へ台状に突き出た突出部の存在を確認している。後円部北側では、地山を掘り残して造成された周溝区画堤が確認されている。

また後円部墳頂の中心部やや西寄りに、割石小口積の竪穴石室があり、その規模は全長 6.6 m、幅 0.93 m、高さ 1.35 mを測る。

昭和 3 年に偶然の機会により石室内の朱層から多くの副葬品が発見された。副葬品には、環状乳神獣鏡、鼉龍鏡、内行花文鏡、三角縁三神三獣鏡、三角縁神人車馬鏡（岡山県車塚古墳、群馬県三本木古墳、福岡県藤崎遺跡出土鏡と同笵）などの青銅鏡 5 面をはじめ、車輪石、石釧、杵形石製品、貝釧、勾玉、管玉、鉄剣、鉄刀、鉄鏃、鉄斧などがあり、これらは東京国立博物館に収蔵されている。なお、石室発見から 2 年後の昭和 5 年には、隣接する直径 72 m の円墳である丸山塚古墳とともに国史跡に指定されている。昭和 49 年からは、史跡周辺を「甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園」として整備され、後述のように昭和 58 年以降、整備のための発掘調査とその調査成果に基づく史跡整備が実施されている。



第 2 図　銚子塚古墳測量図（「中道町史」1975 年刊行）

第２章　整備の経緯と経過

第１節　これまでの保存整備事業の経過

第１次保存整備事業

史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳の指定対象地 36,120 ㎡のうち、29,390 ㎡を昭和 52・53 年度に公有地化し、昭和 58 ～ 60 年度に、銚子塚古墳と丸山塚古墳の保存整備のための発掘調査を山梨県教育委員会が実施した。この調査成果を基礎として、昭和 60 ～ 62 年度には保存整備を完了するに至った。（以下この昭和 58 ～ 62 年度に実施された保存整備事業を第１次整備事業とする）。

しかし、後円部周辺には民有地が残存し、古墳を全周して見学することが不可能な状態にあり、さらに公有地化を進めることが課題となった。

昭和 48 年撮影の銚子塚古墳周辺空中写真

平成 13 年度の発掘調査

公有地化の進展に従い、保存整備のための発掘調査を山梨県教育委員会が平成 13 年度に実施した。括れ部北側や後円部西側を対象に発掘調査を実施し、後円部西側の墳丘端部を確認し、有孔円盤状木製品の円盤部分を発見するなどの調査成果を得た（山梨県教育委員会 2002）。

平成 16 年度の発掘調査

平成 16 年度には、墳丘に接する周溝部については、公有地化を完了したため、後円部北側から西側および前方部北側を対象として発掘調査を実施した（山梨県教育委員会 2005）。現在、整理作業中であり、詳細は次年度以降刊行予定の本報告書に記すが、現段階で明らかになっている成果を以下に記す。

周溝規模・形状としては、北部括れ部周溝の幅は墳端から 18.5 m、後円部北東側から北西側周溝の幅は墳端から 19.5 m ～ 21.5 m、後円部南西部周溝の幅は 20 m であること確認した。また、後円部西側および北側の一部は史跡指定範囲外に延びていることが明らかになった。

前方部北側の周溝外端の外側に人為的な段差が存在することを確認した。古墳築造に伴うものであるか否かは検討を要すが、その方向性は墳丘に合致している。このことから、墳丘北側の周溝外には堤や段差などの遺構が広がっている可能性は高い。

後円部北側では、周溝内に土手状の区画堤が設けられていることを確認した。この区画堤は地山を掘り残す方法で造成されていることから、古墳築造時につく

第１次整備前の銚子塚古墳遠景（南東から）

られたものと考えられる。その用途を特定することは困難であるが、銚子塚古墳が南から北に傾く斜面上に立地することから、周溝内の水位調整機能などが想定される。周溝内の遺構が、東日本の前期古墳に存在することが確認されたことの意義は大きい。

同じく後円部北側では、墳端から周溝内へ傾斜をもって台状に突き出た突出部が存在することを確認した。この遺構の設置目的は検討を要するが、四世紀代の奈良県東殿古墳や同赤土山古墳などに見られる墳丘からの張り出し遺構、同行燈山古墳（崇神天皇陵）や渋谷向山古墳（景行天皇陵）などの巨大古墳に見られる後円部の突出部分との関連性など祭祀の場である可能性が高い。

平成５年撮影の銚子塚古墳周辺航空写真（北西から）

出土遺物は、木柱、笠形木製品の一部と考えられる円形木製品、棒状の火鑽板、有孔円盤状木製品、刀剣状木製品、棒状木製品、ヘラ状木製品などが出土している。とくに木柱は、後円部西側の墳端テラスの先端部で、直立して埋設されていた最大直径20㎝、残存長90㎝のものである。木柱の上端部は朽ち折れているが、さらに上方へ延びていた可能性が高い。

第２節　平成17年度の保存整備事業の経過

史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳の指定対象地36,120㎡のうち、昭和52・53年度に公有地化し、第１次保存整備を行った29,390㎡については既に史跡公園として活用がなされている。今回の平成17年度の保存整備事業は、平成９～15年度に公有地化した5,071.26㎡について、平成13・16年度の発掘調査の成果を基に、植栽・芝貼り等を行うものである。これにより、課題であった銚子塚古墳を全周して見学することが可能となった。

整備事業の経費は、文化庁から平成17年度国宝重要文化財等保存整備費補助金を受け「史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳保存修理（環境整備）」として、国庫補助と山梨県費との折半で負担した。

整備事業にあたっては、実施設計を山梨県教育委員会と山梨県土木部峡東地域振興局石和建設部が共同で行い、監理を峡東地域振興局石和建設部が行った。監督員は、石和建設部の近藤準二に加えて、文化財側からは山梨県埋蔵文化財センターの村石眞澄が担当した。

また、文化庁小野健吉主任文化財調査官からの指導を受け、大塚初重氏（明治大学名誉教授）、谷口一夫氏（県文化財審議会史跡部会長）、田畑貞寿氏（造園学専門家）の３名の専門家から現地での指導助言を受けて保存整備事業を進めた。

日程

８月30日　文化庁小野健吉主任文化財調査官から指導を受ける
９月８日　第１回指導者会議開催（現地指導）
９月30日　現状変更許可（17委庁財第４の991号）
10月３日　第１回指導者会議開催（追加現地指導）
10月13日　地元住民と現地協議実施
10月14日　準備工着手
10月31日　排水工着手（U字溝設置）
11月23日　普及活用「古墳探検隊の見学・測量実習」
12月１日　縁石工着手
12月20日　砂利敷工着手
12月28日　縁石工完了
１月６日　植栽工着手
１月30日　現状変更追加許可（17委庁財第４の1541号）
１月31日　砂利敷工完了
２月６日　植栽工完了
２月10日　整備工事完成検査
２月24日　指導者への整備工事完了説明
３月31日　整備報告書刊行

第３章　平成 17 年度の保存整備工事

基本方針

平成 17 年度の保存整備の基本方針は、昭和 58 ～ 62 年度に実施した第１次保存整備に準じた。とくに墳丘・周溝は前回整備の部分と隣接するため、違和感がないように留意した。さらに、第１次整備と同様に古墳周辺の環境を整え、史跡に隣接する住宅地への荒天時の出水による被害を防止するように配慮した。

墳丘

第１次整備の基本方針に従い、平成 13･16 年度調査で確認した墳丘端ラインで墳丘の復元を行った。とくに西側は、墳丘裾を掘り込んで波板鋼鉄製の水路が巡っており、整備前の墳丘端から最大で約４ｍほど墳丘端ラインを西側に拡張して復元を行った。当初の計画では、墳丘西側の波板鋼鉄製の水路周辺を対象としていたが、前回の整備範囲との接合部分が古くからの墳丘の崩壊部分に当たり、部分的な復元では崩壊部の形状が強調されるため、墳丘西側は三段築成の下段を全体的に盛土をして修景を行った。盛土は主に場外からの搬入土によって行った。盛土の表層部は床土を入れ、野芝を貼った。

突出部

平成 16 年度の発掘調査により、東日本では初めての発見となった後円部墳端から周溝へ台状に突き出した突出部を確認した。実際の突出部は周溝の底面に向かって傾斜をもって構築されているが、整備では周溝の上面に大礫を配置して表現した。実際に使われていた礫の最大径に近い大礫を主に用いることにより、大礫の重量で安定させ、コンクリートなどで固定しない方法とした。また大礫の間に中礫・小礫を詰め、さらに安定を図った。今後の維持管理で懸念された除草も、周溝部と同様に行えるように配慮した。

周溝

南側を除き周溝の外側は、ほぼ宅地となっているため、荒天時の出水の被害を軽減するように配慮した。砕石を厚めに敷き転圧、その上に玉砂利を敷き均し、保水性を高めて出水を一旦蓄えるように設計した。後円部北東部は、北側の宅地の地盤高や既存水路のレベルに従ったため、遺構面を傷めないように配慮しつつ、宅地に伴う瓦礫と表土層を慎重に取り除き砕石・玉砂利に入れ替えた。他の部分では、瓦礫などを取り除く程度で、砕石を厚めに敷き転圧、その上に玉砂利を敷き均した。

周溝外

第１次整備と同様に周溝基底の推定線上に縁石を配置し、周溝外縁を表示した。外縁から外側には、盛土を行い、さらに床土を入れ、野芝を貼った。とくに後円部北側は、厚く盛土を行い周溝に向かって下り勾配の斜面とした。こうした理由は、荒天時の出水が周溝内に帯水し、北側に接する宅地を直接的に脅かさないように計画したためである。さらには、この斜面を越えて溢れた水を排水するために、U字溝（U240 × 240 ㎜）を史跡境界部に設置した。

公有化計画地に隣接する北西部分には、暫定的な措置として、盛土の土留めとしてフトンカゴを２段設置した。

括れ部の北側の土地も、北側に厚く盛土を行い高くして、わずかに南向きの傾斜をもたせたが、全体的には東西の宅地や畑の地盤に合わせた。

前方部北東部の土地は、南の丘陵から発する小水路が荒天時の出水で溢れたときにも、北側の地盤の低い宅地を出水が直撃しないように、北側に厚く盛土を行い南向きの斜面とした。平成 16 年の発掘調査において周堤である可能性をもつ高まりを確認しており、西側に隣接する 774 番地の発掘調査でさらに検討した上で本格的な保存修理を行う予定である。

後円部南西部では、宅地造成のための盛土を除去し、急斜面を緩和して法面を整形した。西側の南端部の民地境界部は粗積みの石垣であり、盛土整形には強度不足であり、かつ傾斜地であるためコンクリート擁壁を設置した。また隣接する第１次での整備箇所に準じて、小段を設けた。

小水路の改修

この小水路は、南の丘陵から発し前方部の東側を回りこみ、銚子塚古墳周辺では最大幅をもつ水路である。しかし一部は、コンクリート擁壁ではなく素掘りのままであるために、雑草が繁茂しやすく、出水時にはここで流速が低下し、土砂の堆積を招き、溢流することがあったので改修を行った。

なお、この部分以北は史跡範囲外であり、中道町の経費負担により改修を行った。

植栽

基本的には、史跡と民地との境界部には、樹高約 180 ㎝のサザンカを植えて生垣とし、史跡公園空間と生活空間とそれぞれの視線を遮り、かつ宅地への日当たりを大きく妨げないものとした。

後円部南側の市道との境界部は、史跡境界を示すことと歩行者の転落を防止する効果を兼ねて樹高約 60 ㎝ドウダ

ンツツジを４本／ｍ×２列として密に植えて生垣とした。

周溝の外側の立ち上がりを表現するために、樹高約 50 ㎝サツキを植えた。後円部北側の周溝立ち上がりは、平成 16 年の発掘調査によれば、史跡範囲外に及んでおり、本来はサツキの列は北側中央で途切れるべきであるが、周溝立ち上がりを立体的に表すために、連続して植樹した。

墳丘と周溝外側は、風雨や見学などによる崩壊を防止し、景観を整えるために野芝の総貼とした。

周溝中央へのＵ字溝の設置

周溝内に溜まった水を排水するために周溝中央にＵ字溝（U300 × 300 ㎜）を設置した。また周溝南縁から墳裾西側に設置されていた波板鋼鉄製の水路を撤去したので、南側から西側のＵ字溝はこの代替としての役割も兼ねている。

後円部南側から西側のＵ字溝は、北流させ北西部で湾曲させて既存の水路に接続した。また後円部北側のＵ字溝は、北西の既存の水路とは接続させずに、東流させ括れ部で既存の水路に接続した。

これらのＵ字溝は、細目のグレーチング蓋を被せ、玉砂利で覆った。

周溝外側へのＵ字溝の設置

前方部周溝外縁の既設のＵ字溝（U240 × 240 ㎜）を括れ部まで延長した。

後円部南側の既設のＵ字溝（U240 × 240 ㎜）を延長し、周溝中央のＵ字溝に集水枡を設置して接続した。

史跡境界部へのＵ字溝の設置

史跡境界部には、史跡内から民地への出水を排水するためにＵ字溝（U240 × 240 ㎜）を設置した。後円部北のＵ字溝は、中央部に集水枡を設置し、周溝中央のＵ字溝へ流下するようにＵ字溝（U240 × 240 ㎜）に接続した。出水を周溝内へ集めるためである。

後円部南西部は、着工前は荒天時の出水が市道から流入し、斜面を浸食し周溝内へ土壌を運び込んでいたため、史跡境界に沿ってＵ字溝（U240 × 240 ㎜）を設置した。このＵ字溝は、南西隅で屈曲し西側を北流し、既存の西側水路に集水枡を設けて接続した。また、西側水路の擁壁の嵩上げを行った。それは、この付近の周溝をほぼ一定の勾配で玉砂利を敷くために行ったものである。

車止めの設置

甲府市道が北から括れ部に接続する部分に９本、前方部北東部に接続する部分に２本の脱着式の車止めを設置した。車止めは擬石製で重量 53kg の差込式で緊急時などに取り外し可能である。

文献

山梨県教育委員会 1985『国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳－保存修理事業　第１・２年次概報－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告　第 10 集

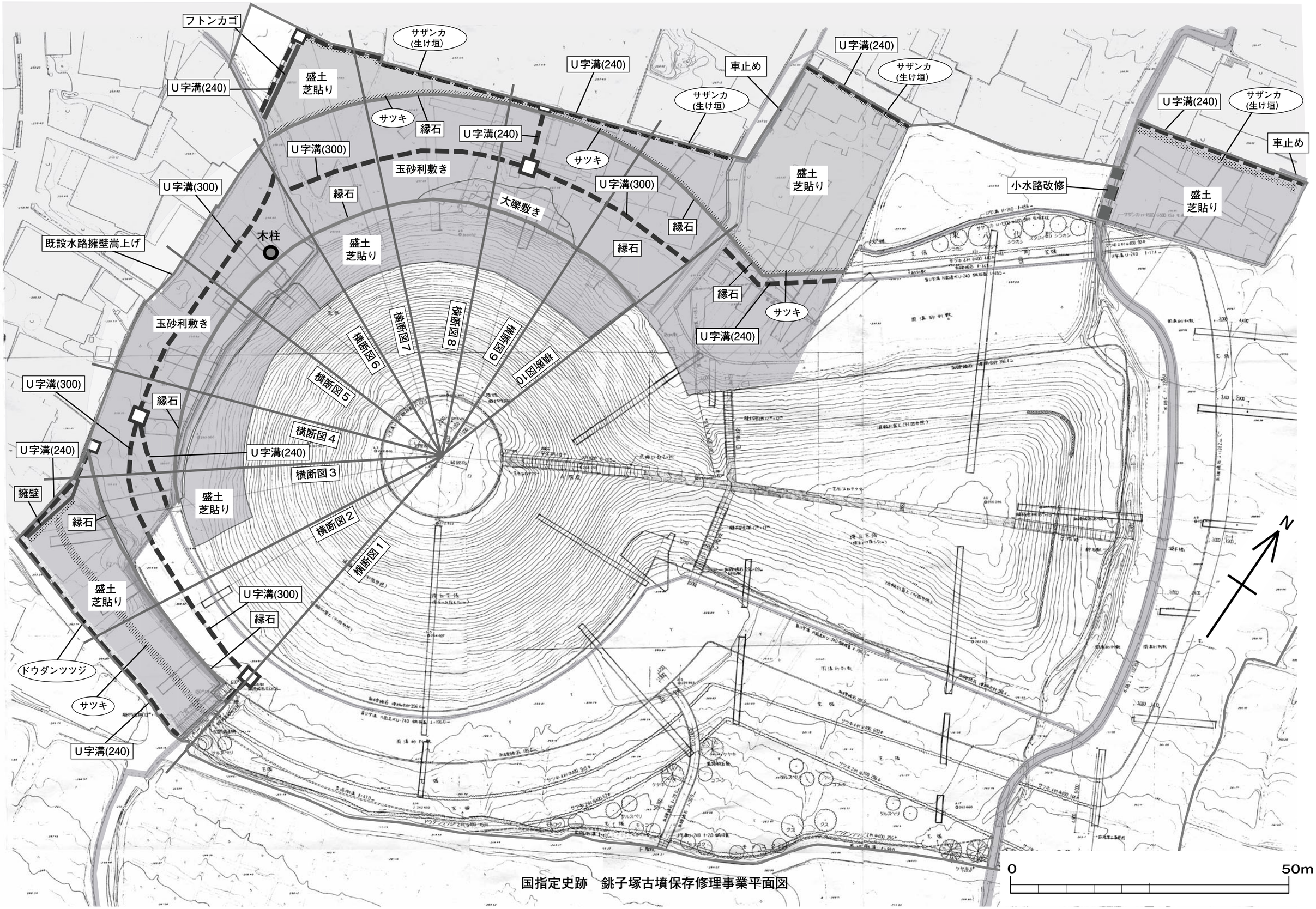
山梨県教育委員会 1986『国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳－保存修理事業　第３年次概報－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告　第 15 集

山梨県教育委員会 1988『国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳－保存整備事業報告書－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告　第 35 集

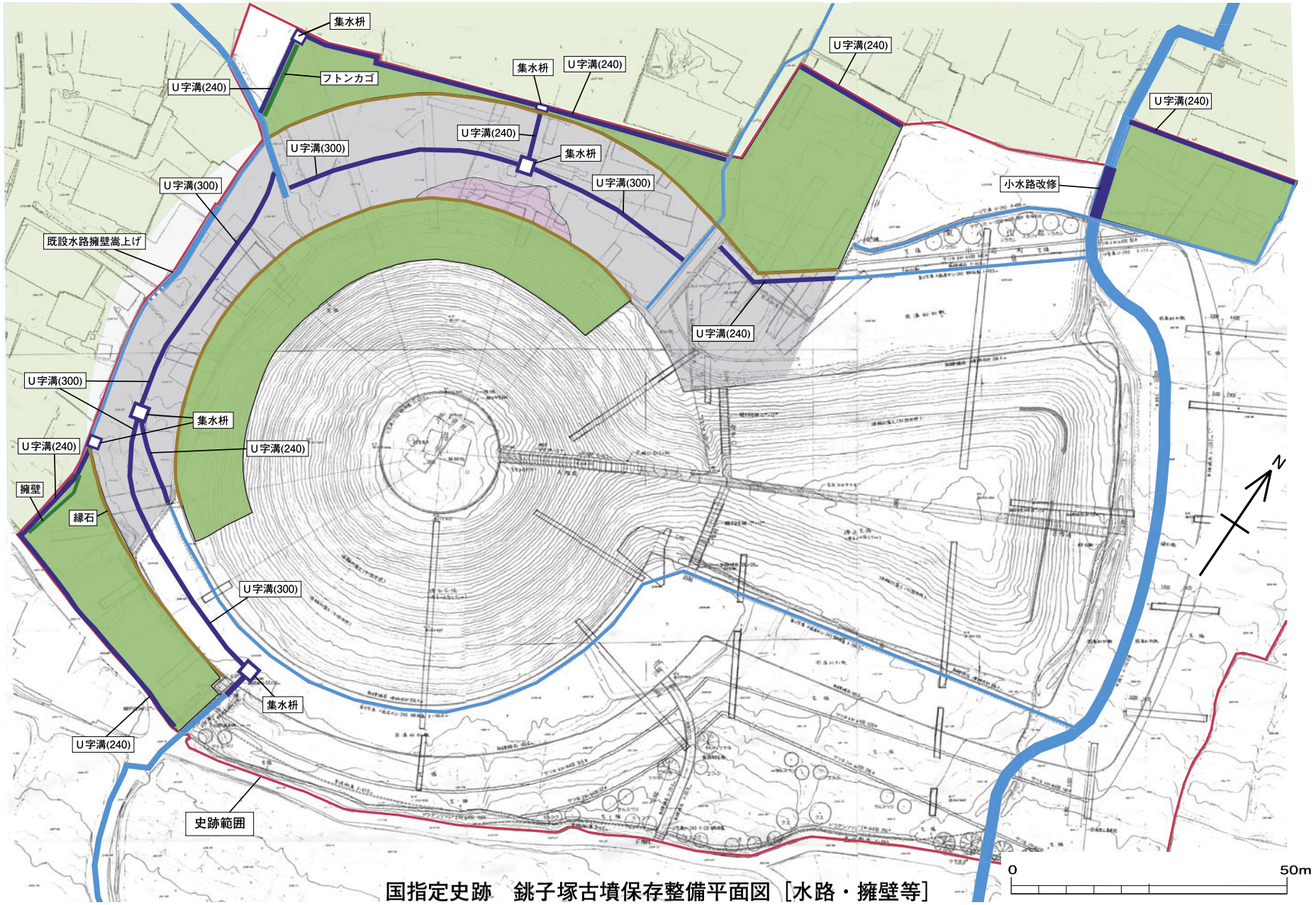
山梨県教育委員会 1994『上の平遺跡第６次調査　東山北遺跡第４次調査　銚子塚古墳南東部試掘』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 94 集

山梨県教育委員会 2002『国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳－史跡整備事業に伴う発掘調査報告書－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 195 集

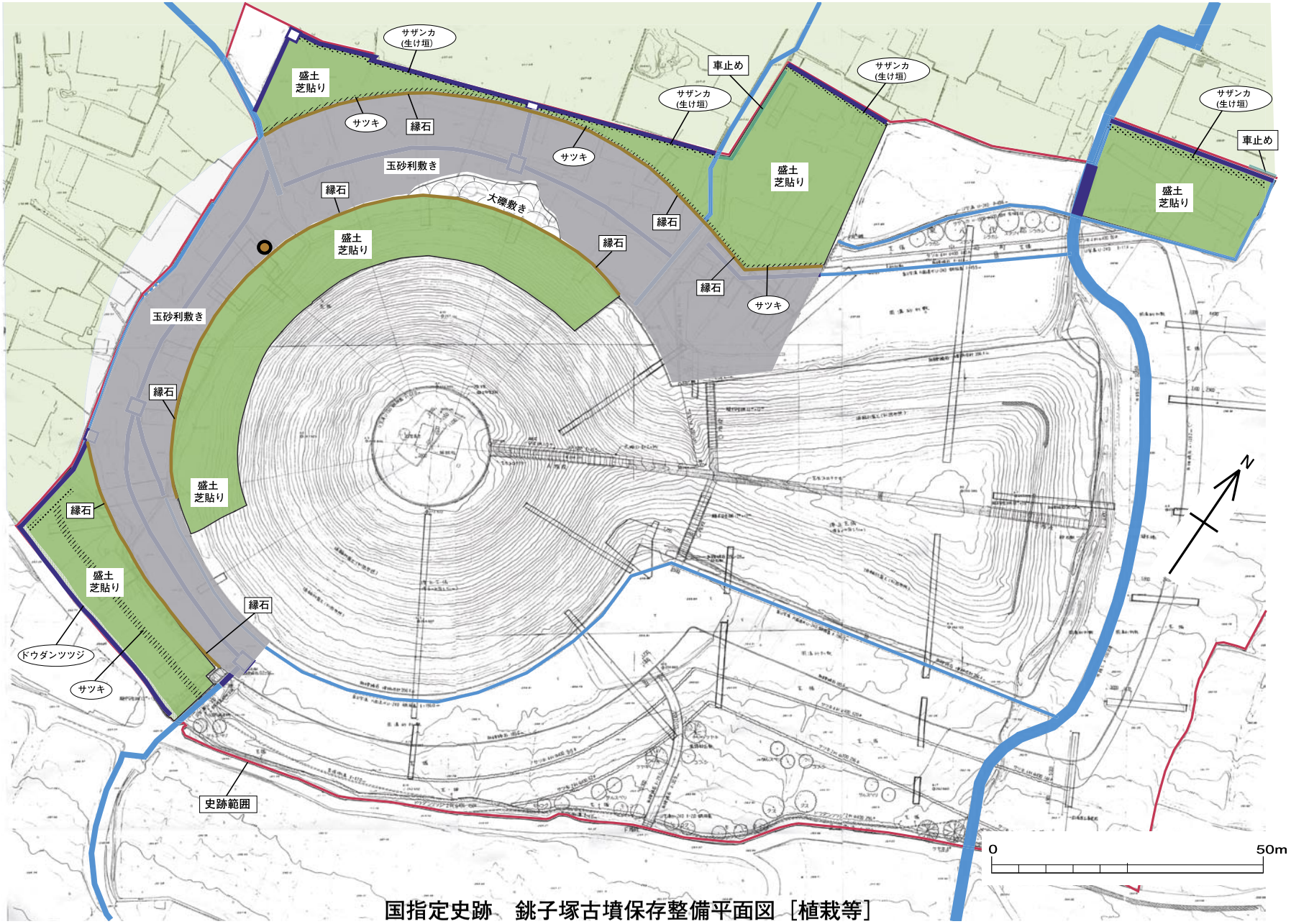
山梨県教育委員会 2005『国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳－史跡整備事業に伴う平成 16 年度発掘調査概要報告書－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 228 集



国指定史跡　銚子塚古墳保存修理事業平面図



国指定史跡　銚子塚古墳保存整備平面図［水路・擁壁等］



国指定史跡　銚子塚古墳保存整備平面図［植栽等］

後円部墳丘の整備

整備前の後円部南西部（墳頂から）

新たに公有地化を行った付近の墳丘の盛土・整形をおこなった。

とくに後円部の南西部については、後円部全体からみても大きな歪みが認められた。

整備前の後円部南西部（南から）

平成 16 年の調査の第 10 トレンチで確認した墳丘裾部と整備済の墳丘裾を結ぶ墳丘ラインでの復元を行った。

盛土途中の後円部南西部（北から）

上の写真に見える鋼鉄製の仮設水路を越えて西側にまで墳丘裾を延長したため、墳丘断面形などを慎重に検討した。

盛土修景完了の後円部南西部（南から）

後円部西側は、三段築成の下段を全体的に盛土整形を行った。

後円部南西部の整備

周溝南西部（墳頂から）

整備前は、出水時には雨水の流入があり、斜面を浸食し、周溝内へ土壌を流出させていた。ブルーシートはこの斜面の浸食を防ぐために仮に敷いたものである。

周溝南西部（墳頂から）

整備では、U字溝を史跡境界に設置し、雨水を下水道へ導いた。さらに、かつてあった家屋に伴う盛土を取り除き、斜面の整形を行った。

周溝南西部（墳頂から）

斜面の修景は、既存の整備箇所（写真左端の階段から左側）に準じて、小段を設けた。

周溝南西部（東から）

斜面へは芝を貼り、小段にツツジを植樹した。写真は植えたツツジの刈り込みを行っているところである。

縁石の設置

後円部墳裾南西部（南から）

縁石の基礎は、現場に型枠を設置し、コンクリートを流し込んで構築した。

周溝北部（東から）

型枠に流し込んだコンクリートが固まった後、縁石を配列し、さらにコンクリートを流し込んだ。

後円部墳裾西部（北から）

画面奥は型枠を取り除いた状態、手前は型枠を設置したところ。

後円部墳裾西部（北から）

縁石の手前に砕石・玉砂利を敷いた仕上がり状態、既存のものよりやや大きな礫を用いた。

芝貼り

整備前の後円部北部（北から）

墳丘はガレキ混じりの残土などを取り除き、盛土を行って整形した後に客土で覆った。

張芝作業（北から）

墳丘客土上へ、芝貼りを行う。張芝は大量の「切り芝」の搬入から進める。

張芝作業（墳頂から）

手作業で芝を並べ、竹釘で固定する。予想以上の速度で作業が進む。

張芝作業（東から）

芝を地面に密着させよく育成するように、この後、薄く客土し、小型のローラーで転圧を行った。

周溝の玉砂利敷き

整備前の周溝北部（南から）

過去の調査で木製品が多く出土したことが示すように、地下水豊富な場所であった。

砕石敷き作業（南から）

かつての住宅に伴うガレキを除去し、砕石を搬入し、敷き均しを行っている。出水時には、雨水を一時的に蓄えるように、砕石は厚めにしている。

砕石の敷き均し作業（東から）

砕石の敷き均しをバックホーで行っている。この後ローラーで転圧を行った。

玉砂利敷き作業完了（南から）

砕石を敷き均し転圧を行ったのちに、玉砂利を敷き均した。この際に、周溝中央のＵ字溝上も玉砂利で覆った。

後円部北側の突出部

発掘調査で確認した突出部（西から）

平成 16 年の発掘調査で後円部北側の墳端から周溝へ台状に突き出した突出部を確認した。

突出部の表現（墳頂から）

実際の突出部は周溝底面に向かって構築されているが、整備では周溝の上面に大礫を配置して表現した。

突出部の整備 1（墳頂から）

表現の方法は、実物よりもやや大きな礫を用いることで礫を重量で安定させ、コンクリートなどで固定しないものとした。

突出部の整備 2（墳頂から）

大礫の間には、中礫・小礫を詰め、さらに安定を図った。

植栽

後円部北側の生垣（西北西から）

民地との境界部は、サザンカを植えて生垣とした。

後円部南側の生垣（西から）

市道との境には、史跡境界を示すことと歩行者の転落を防止する効果を兼ねて、ドウダンツツジをやや密に植えて生垣とした。

後円部北側の植栽（西から）

周溝の内側からサツキ、芝、サザンカによる生垣を植栽した。

後円部南側の生垣（東から）

以前の整備に従い周溝外側の法面中段にサツキを植えた。

整備前の水路

後円部南西部（墳頂から）

南の丘陵から出水により法面を浸食することがあった。このために周溝内へ土壌が流れ出し、雑草が繁茂しやすくなっていた。

後円部南西部（墳頂から）

西側の墳裾に水路が設置されていた。（写真中の青ラインは既存の水路、黄色ラインは新設した水路）

周溝西側（墳頂から）

墳裾の水路は強く屈曲しているために出水時には溢れ出すことがあり、その水は民家の間の市道へ流れ込んでいた。

周溝西側（墳丘中段から）

周溝は西に流下する水路を境に、西側が高く、北側が低くなっていた。

周溝中央のＵ字溝設置

周溝北側（東から）

周溝内に溜まった水を排水する役割をもつ。

周溝北側（南西から）

周溝内に溜まった水を排水する役割をもつ。この付近は地下水が豊富で晴天時でも湿地に近い状態であった。

周溝西側（墳頂から）

西側の墳丘裾を巡っていた水路を廃止し、周溝中央のＵ字溝に付け替えた。排水は従来と同様に、写真右の住宅の間の水路へ流すこととした。

周溝南西（南から）

以前の整備で設置された周溝の墳丘よりを巡るＵ字溝を延長したものと、周溝外側にあった水路を付け替えた周溝中央を巡るものとを設置した。

外周のＵ字溝の設置

周溝外側のＵ字溝（西から）

昭和 61 年度の整備で前方部北側に設置したＵ字溝をくびれ部まで延長した。周溝内に溜まった水を排水する役割をもつ。

史跡範囲境のＵ字溝設置（東から）

北側の市道との境界部に設置したＵ字溝。周溝内から溢れ出す水を排水する役割をもつ。市道（旧町道）は中道町の経費負担による。

史跡範囲境界のＵ字溝設置（東から）

Ｕ字溝の南には盛土を行いサザンカを植え生垣とした。

史跡範囲境界のＵ字溝設置（西から）

周溝の外側は、盛土を行い芝を貼り、サザンカを植えて生垣とし、最も外側にＵ字溝を設置した。

西側水路

整備前の周溝西側（北から）

整備前の周溝西側水路の側壁は、高さが不揃いであり、玉砂利敷を行うためには高さが不足していた。

整備後の周溝西側（北から）

周溝西側水路の側壁の嵩上げを行い、砕石を敷き転圧し、玉砂利で覆った。

周溝南西隅（北から）

民地境界部分は粗積みの石垣であり、盛土整形には強度不足でありかつ傾斜地であるためコンクリート擁壁を設置した。

周溝西側（南から）

西側周溝中央部は、砕石を厚くして、南北の既存の水路の高さに合わせた。

周溝北西部の整備

周溝北西部（墳頂から）
　出水時には水路から溢れた水が集中することがあった。

周溝北西部（南から）
　整備では雨水を周溝内側に集めるために、史跡境界部にフトンカゴを置き盛土を行った。

周溝北西部（南東から）
　盛土へ芝貼りおよび植樹を終えた状態。正面の住宅のブロック塀の様子から、奥に向かって高くなっていることがわかる。

周溝北西部（墳頂から）
　玉砂利敷まで完了した状態を墳頂部から見下ろす。

小水路の整備

整備前の小水路遠景（前方部から）

小水路は南側の丘陵からの出水が集中する水路である。

整備前の小水路（南から）

小水路のこの箇所は、未改修で素掘りのままであり、出水時には溢流することがあった。

整備後の小水路（南から）

小水路の擁壁と底面をコンクリートで構築した。

整備後の小水路（北から）

前方部越しに丘陵部を望む。

車止め設置他

車止めの設置（北から）

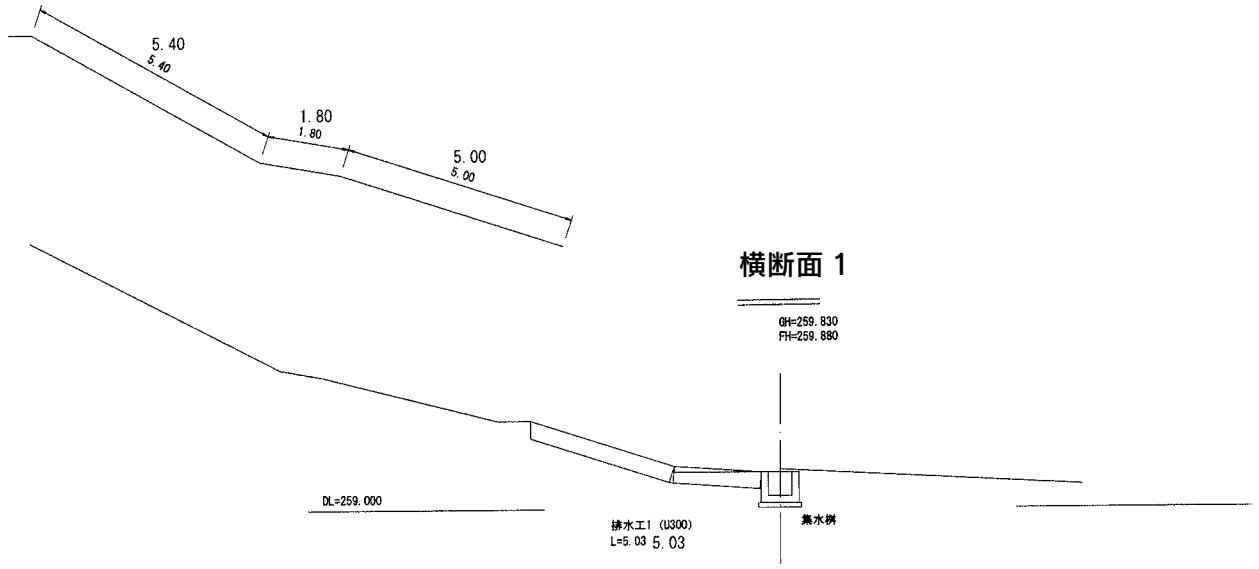
　くびれ部に接続する市道との境に車止めを設置した。重量約 53 kgの差込式で緊急時には脱着が可能である。

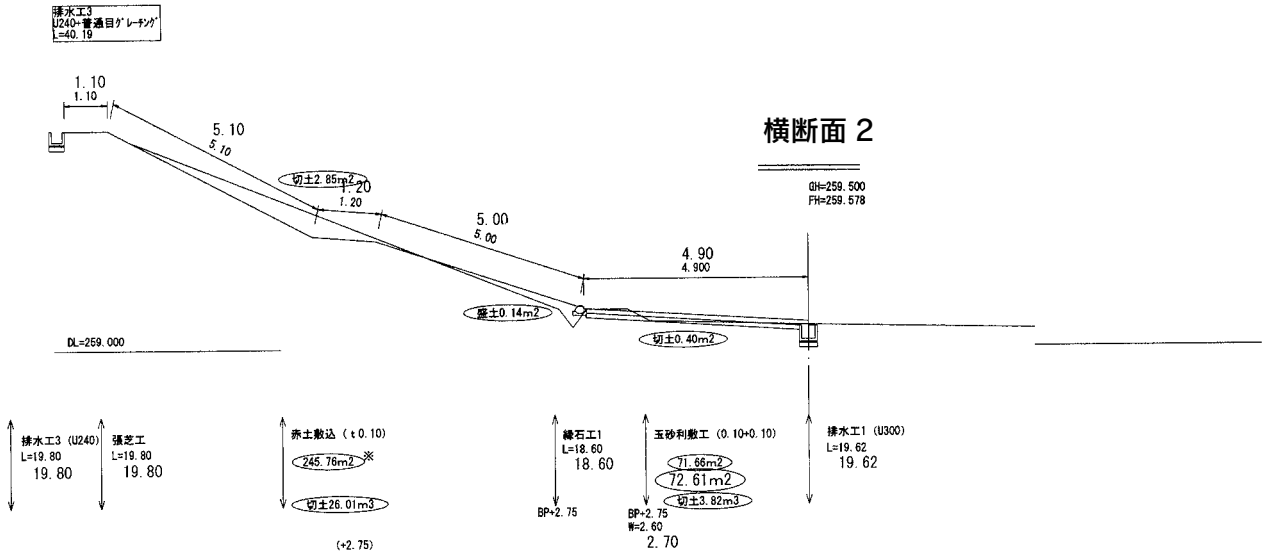
車止めの設置場所遠景（南東から）

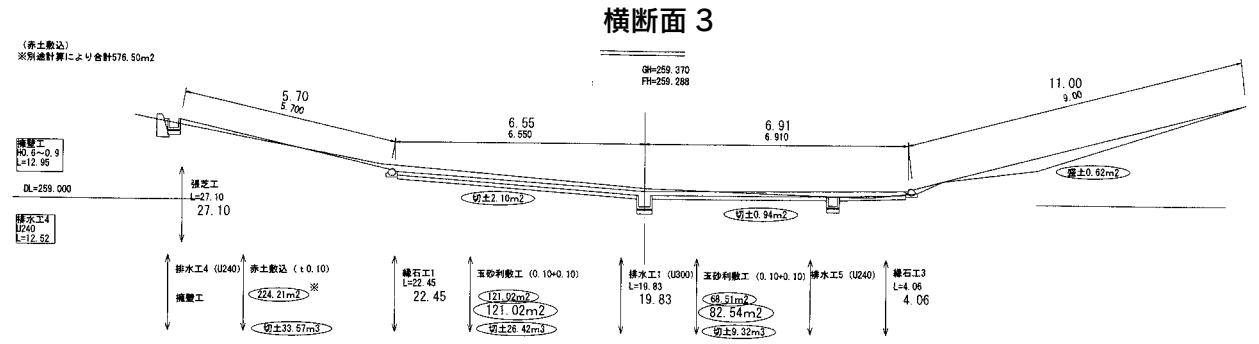
前方部北側の車止め（北から）

工事完成検査

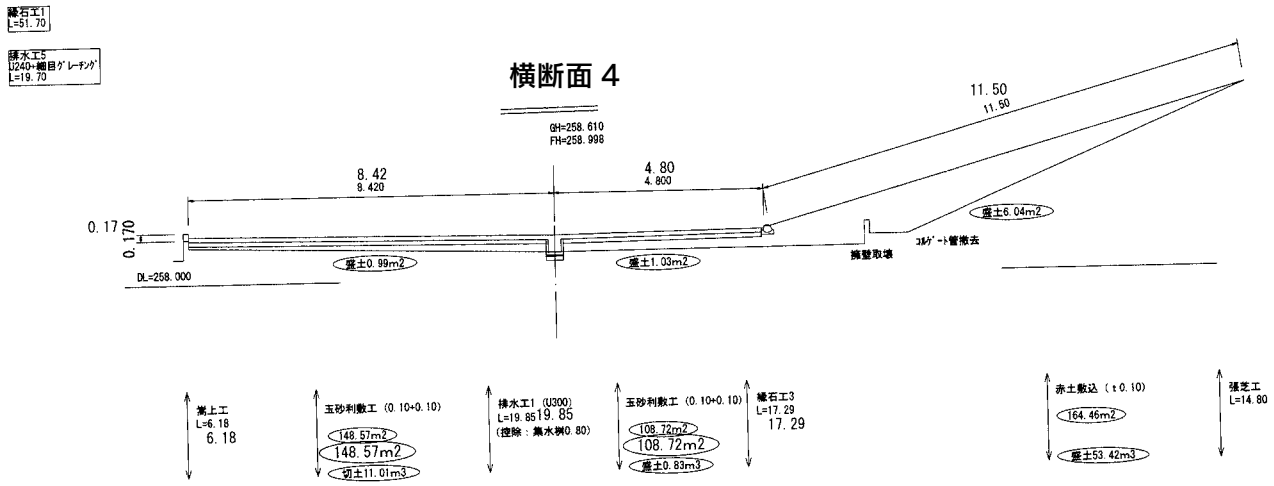
　後円部の張芝面積の計測確認

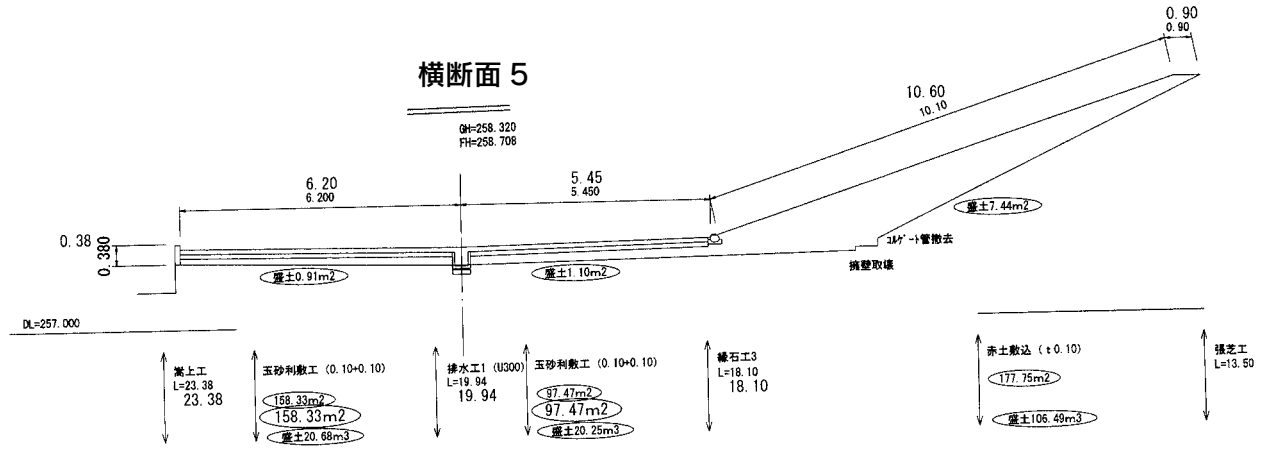

横断面 1
5.40
5.40
1.80
1.80
5.00
5.00
GH=259.830
FH=259.880
DL=259.000
排水工1 (U300)
L=5.03 5.03
集水桝

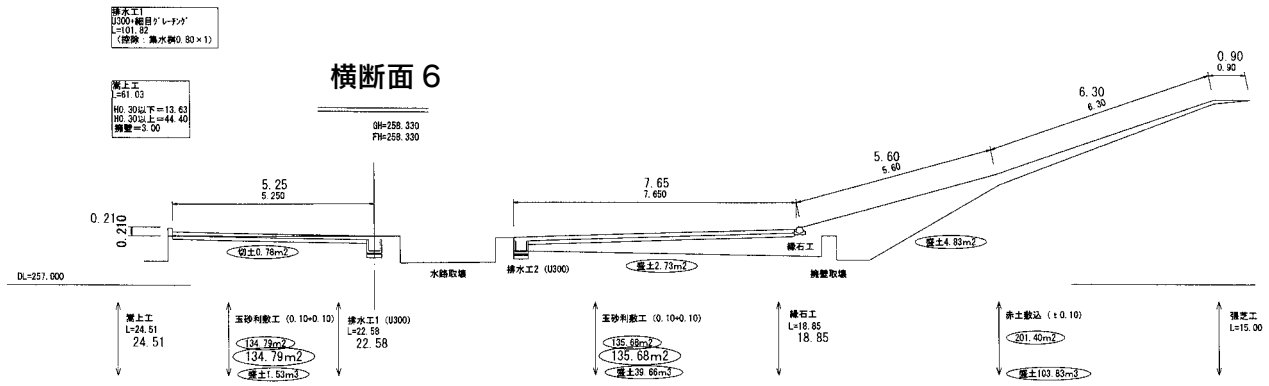

横断面 2
排水工3
U240+普通目ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ
L=40.19
1.10
1.10
5.10
5.10
切土2.85m2
1.20
1.20
5.00
5.00
4.90
4.900
GH=259.500
FH=259.578
盛土0.14m2
切土0.40m2
DL=259.000
排水工3 (U240)
L=19.80
19.80
張芝工
L=19.80
19.80
赤土敷込 (t0.10)
245.76m2 ※
切土26.01m3
(+2.75)
練石工1
L=18.60
18.60
BP+2.75
玉砂利敷工 (0.10+0.10)
71.66m2
72.61m2
切土3.82m3
BP+2.75
W=2.60
2.70
排水工1 (U300)
L=19.62
19.62


横断面 3
(赤土敷込)
※別途計算により合計576.50m2
GH=259.370
FH=259.288
5.70
5.700
6.55
6.550
6.91
6.910
11.00
9.00
補整工
NO.6~0.9
L=12.95
DL=259.000
張芝工
L=27.10
27.10
排水工4
U240
L=12.52
切土2.10m2
切土0.94m2
盛土0.62m2
排水工4 (U240)
補整工
赤土敷込 (t0.10)
224.21m2 ※
切土33.57m3
練石工1
L=22.45
22.45
玉砂利敷工 (0.10+0.10)
121.92m2
121.02m2
切土26.42m3
排水工1 (U300)
L=19.83
19.83
玉砂利敷工 (0.10+0.10)
68.51m2
82.54m2
切土9.32m3
排水工5 (U240)
練石工3
L=4.06
4.06

横断図１～３





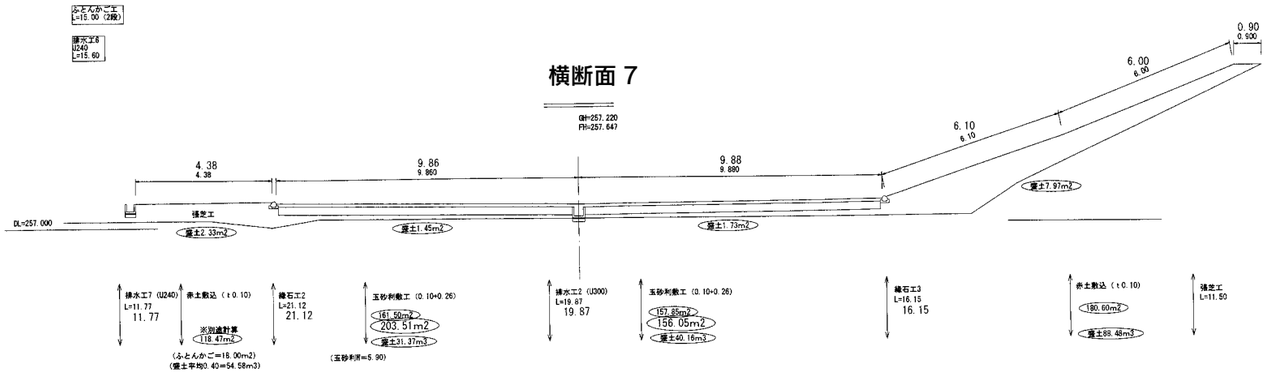


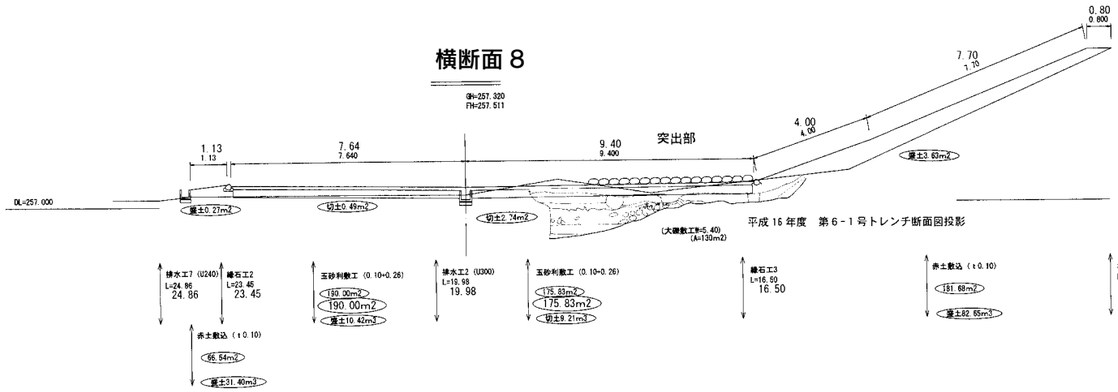
盛土合計＝ 346.69 ㎥
切土合計＝ 110.15 ㎥

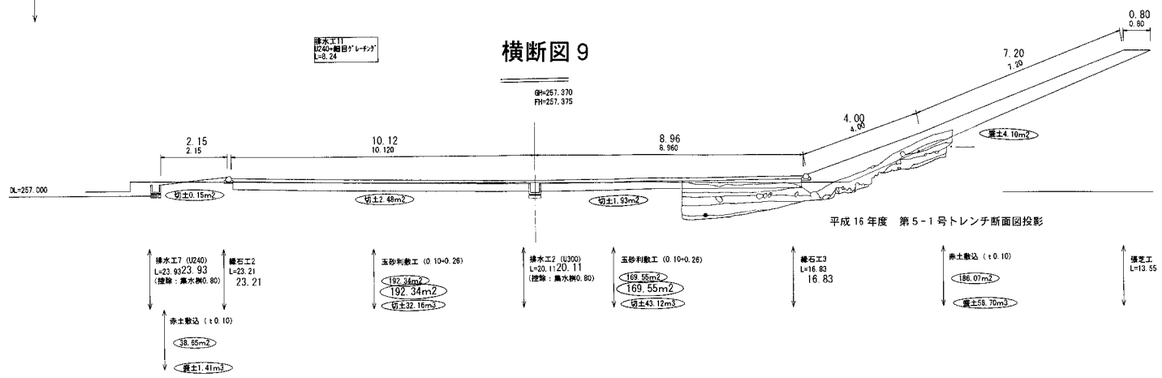
玉砂利敷工合計＝ 1044.75 ㎥
1059.78 ㎥

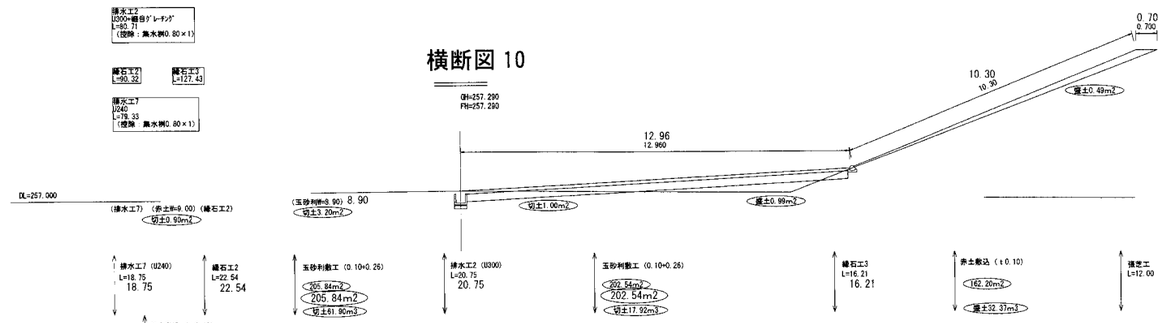
赤土敷工合計＝ 1120.11 ㎥
張芝工＝ 1034.54 ㎥

横断図 4 ～ 6





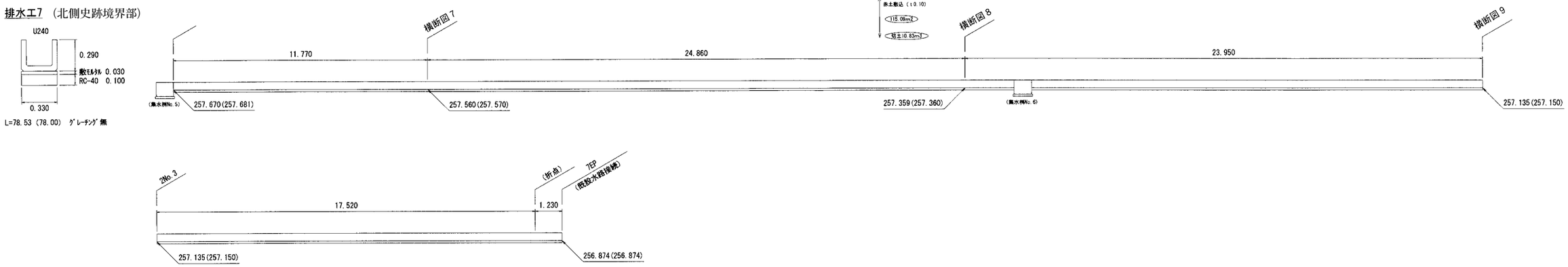




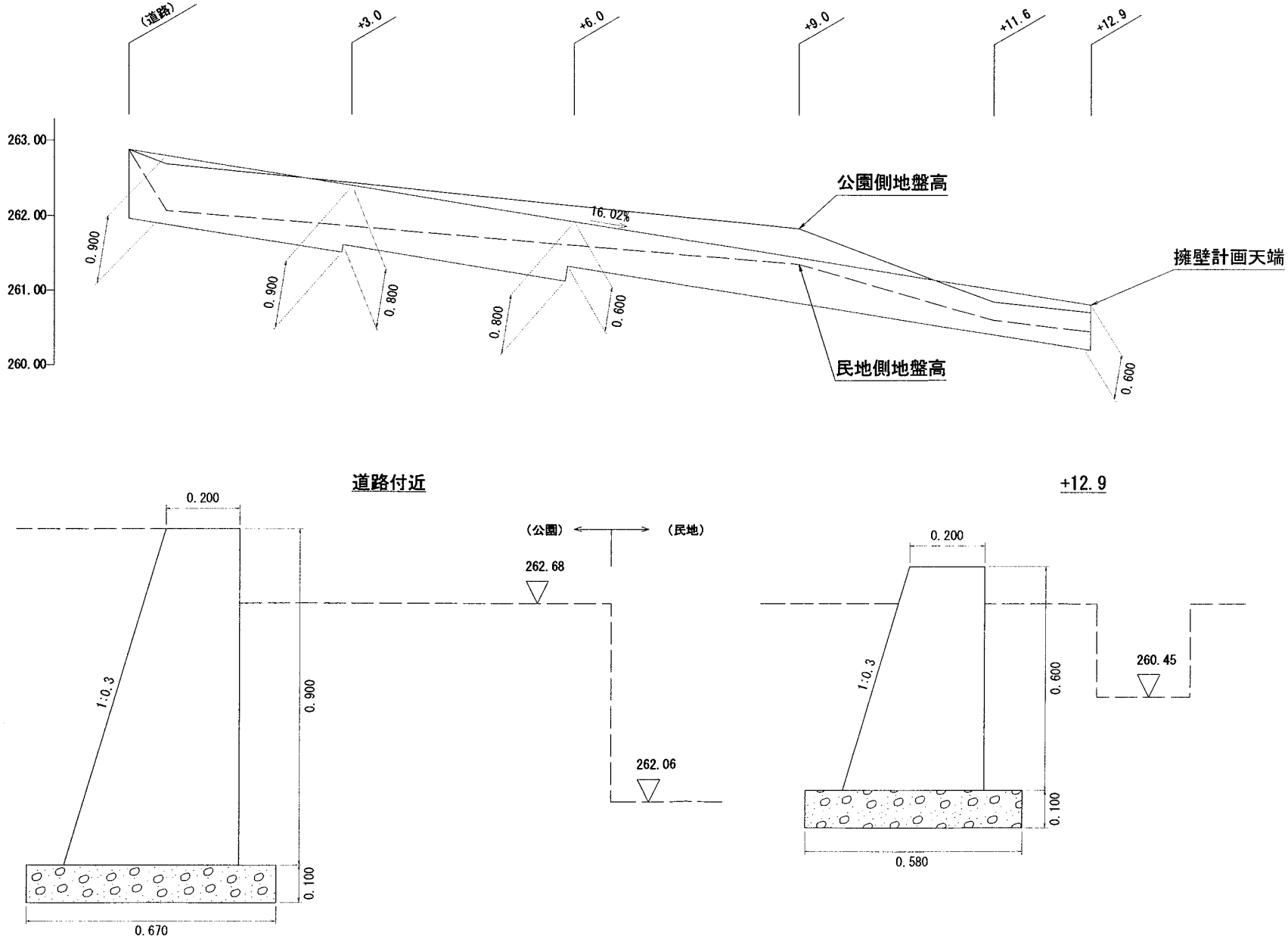
盛土合計＝ 431.51 ㎥
切土合計＝ 175.10 ㎥

玉砂利敷工合計＝ 1455.45 ㎥
1495.69 ㎥

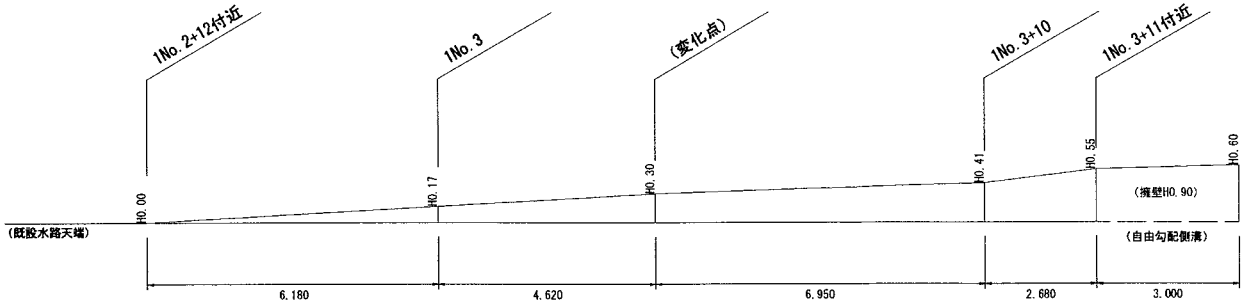
赤土敷工合計＝ 1049.30 ㎥

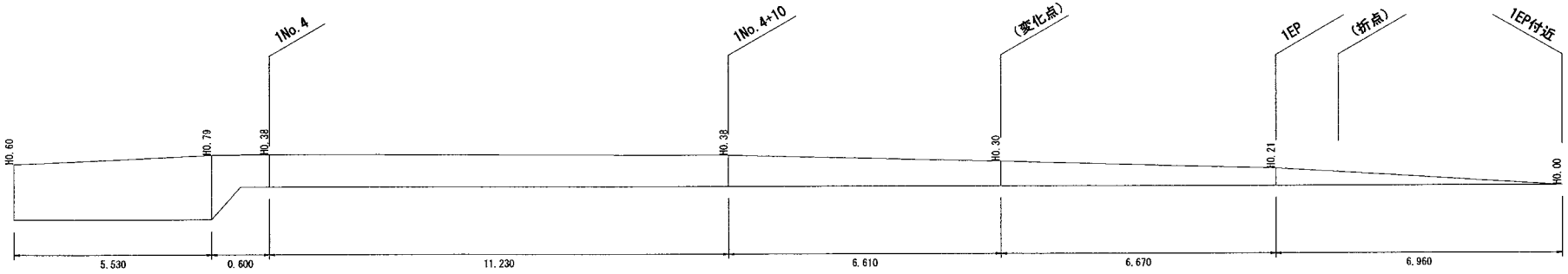


横断図７～10 他

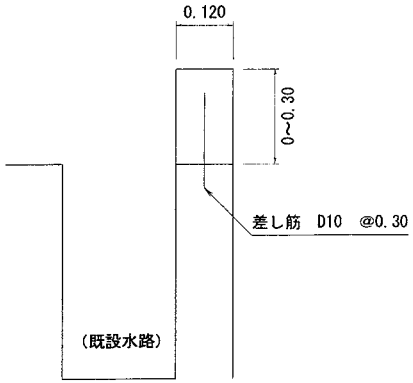


後円部南西部擁壁計画図

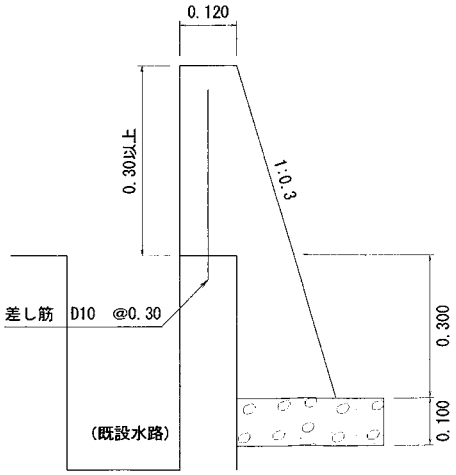




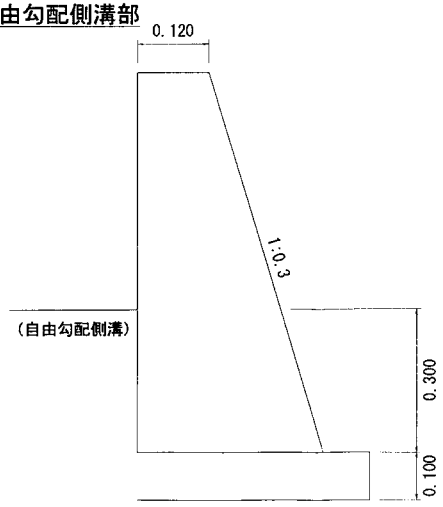
嵩上0.30以下



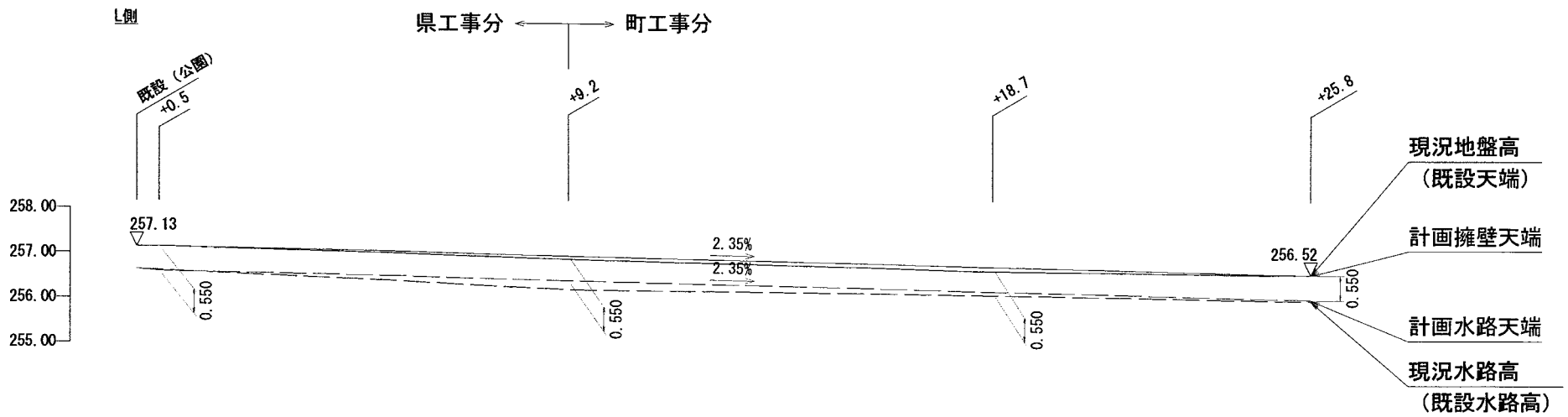
嵩上0.30以上

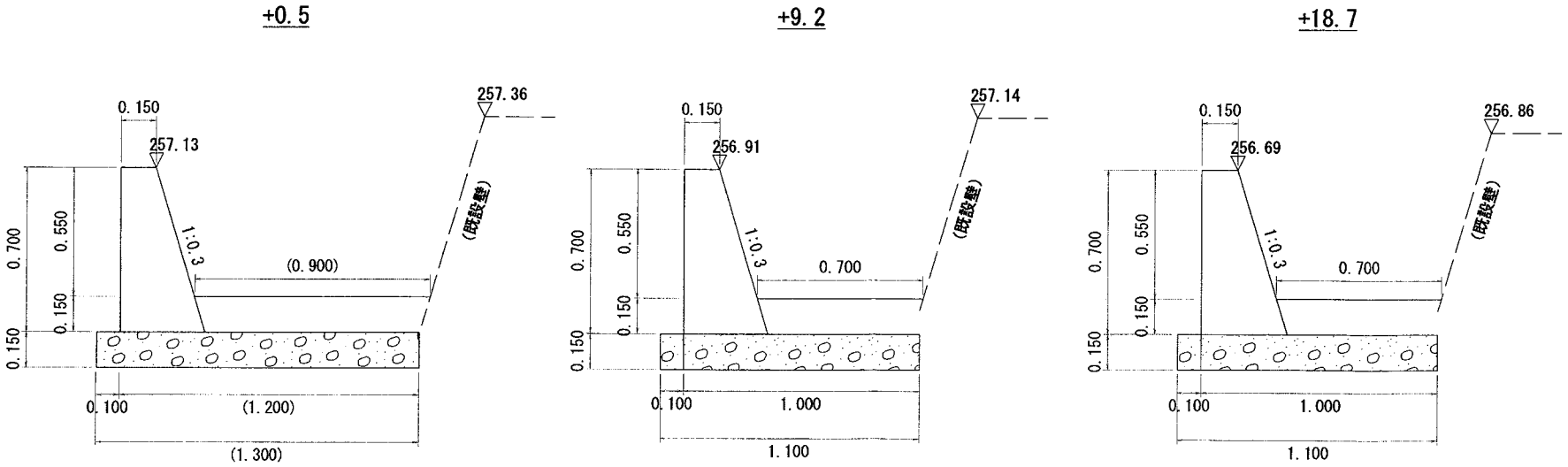


自由勾配側溝部

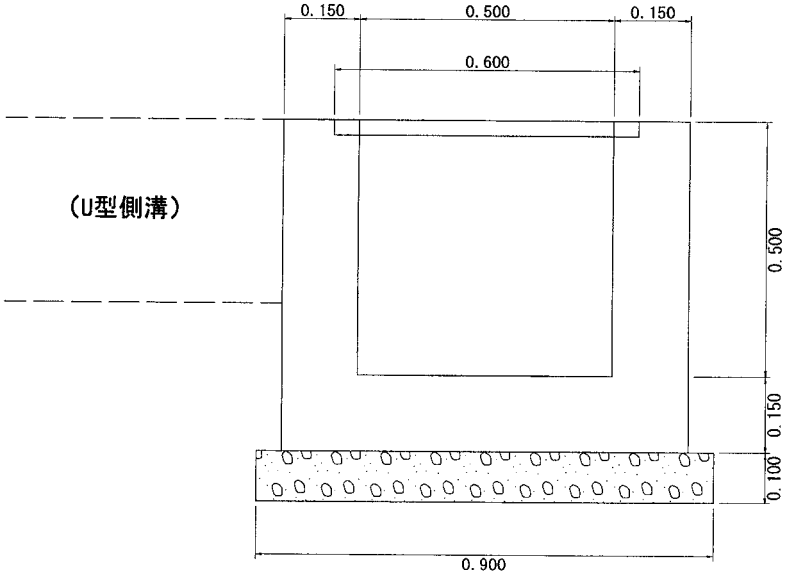


西側既設水路嵩上計画図

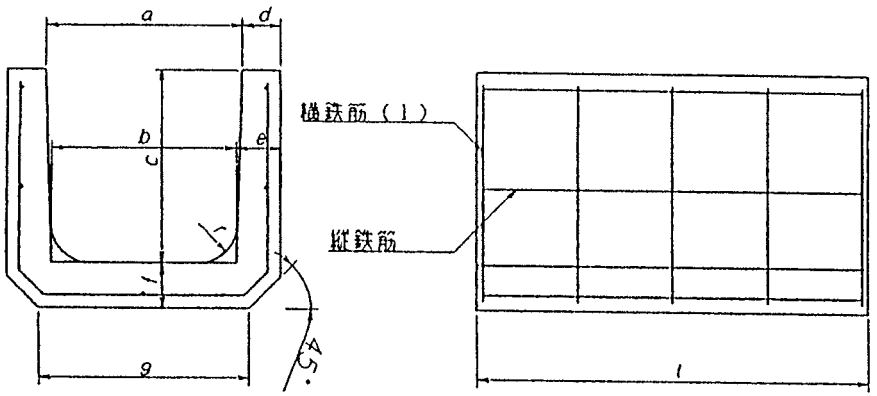

L側
県工事分
町工事分
既設（公園）
+0.5
+9.2
+18.7
+25.8
258.00
257.00
256.00
255.00
257.13
2.35%
2.35%
256.52
0.550
0.550
0.550
0.550
現況地盤高
（既設天端）
計画擁壁天端
計画水路天端
現況水路高
（既設水路高）


+0.5
+9.2
+18.7
0.150
257.13
257.36
1:0.3
(0.900)
(既設壁)
0.700
0.550
0.150
0.150
0.100
(1.200)
(1.300)
0.150
256.91
257.14
1:0.3
0.700
(既設壁)
0.700
0.550
0.150
0.150
0.100
1.000
1.100
0.150
256.69
256.86
1:0.3
0.700
(既設壁)
0.700
0.550
0.150
0.150
0.100
1.000
1.100

小水路計画図

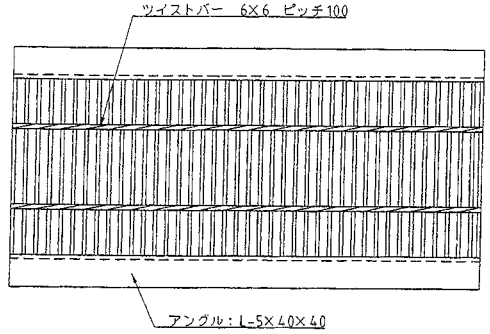


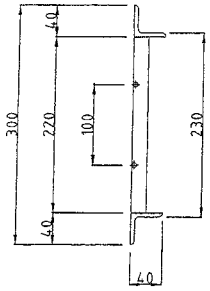
集水桝

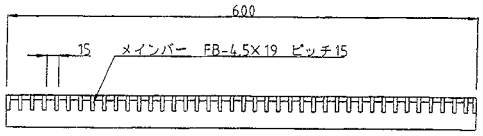


種類（呼び）	寸法（mm）									配筋			
										縦鉄筋		横鉄筋	
	a	b	c	d	e	f	g	r	l	径又は呼び	数量（本）	径又は呼び	数量
U240	240	220	240	45	50	50	240	50	600	3.20	7	3.20	5
U300	300	260	300	50	60	60	300	50	600	3.20	9	4.00	5

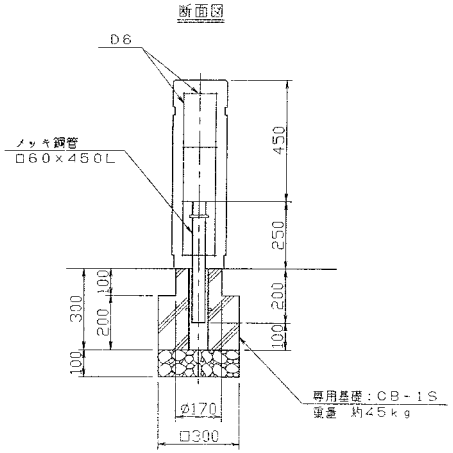
U 字溝

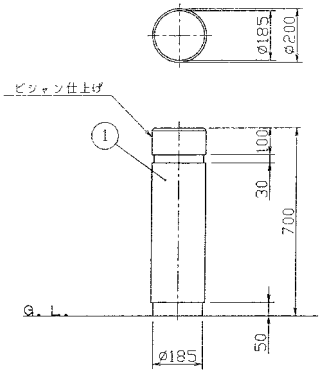






U 字溝細目グレーチング





車止め

各部品図

おわりに

この保存整備事業により、長年の課題であった銚子塚古墳の周溝をひと回りして見学することができるようになりました。銚子塚古墳の姿がだんだんに整備されるに従い、史跡指定地の外へ伸びていることも明らかになってきました。銚子塚古墳を正しく評価し史跡公園として活用するために、史跡指定地外も視野に入れて検討すべきものと考えられます。

4 世紀後半の東日本では、最大級の銚子塚古墳がなぜここの地に造られたのか、ここに葬られた人物は畿内政権とどのような関係にあったのか、散策しながら太古の甲斐の歴史へ思いをめぐらせに訪れていただきたいと思います。

末筆ではありますが、この保存整備事業を進めるにあたって、貴重な指導・助言あるいは協力をいただいた方々へ、ここに厚くお礼を申し上げます。

銚子塚古墳保存修理（環境整備）事業費収支概要

収　入　　（単位千円）

科　　目	精　算　額
国　庫　補　助　金	16,361
県　　費	16,362
合　　計	32,723

支　出

科　　目	精　算　額
工　事　請　負　費	32,100
報　告　書・　事　務　費	623
合　　計	32,723

報告書抄録

ふりがな	くにしていしせき ちょうしづかこふんつけたりまるやまづかこふん
書名	国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳
副題	保存修理事業報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第239集
著者	村石 眞澄・芦澤昌弘・代永智恵・上野桜
発行者	山梨県教育委員会
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地・電話	〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923　　TEL055-266-3016
発行年月日	2006年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	整備期間	整備面積	整備名
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				㎡	
ちょうしづかこふん	やまなしけんこうふششもそねちょう	19201	（旧中道町番号）91	35°35′32″	138°34′41″	2005年10月3日～2006年2月28日	5,071	国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳保存修理事業
銚子塚古墳	山梨県甲府市下曽根町							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
銚子塚古墳	古墳	古墳時代	墳丘　突出部　墳端テラス　周溝　周溝区画堤　階段状の周溝底面　木柱埋設土杭	・埴輪（円筒・朝顔形・壺形） ・土器（S字状口縁台付甕他） ・木製品（木柱、有孔円盤状木製品、刀剣状木製品、棒状木製品、ヘラ状木製品、火鑽板ほか） ・自然遺物（樹木・種子・昆虫化石他）	全長169 mの前方後円墳

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第239集

国指定史跡　銚子塚古墳附丸山塚古墳
（くにしていしせき　ちょうしづかこふんつけたりまるやまづかこふん）
－保存修理事業報告書－

2006年（平成18年3月28日）印刷
2006年（平成18年3月31日）発行

編集　山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923
TEL　055-266-3016
E-mail : maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

発行　山梨県教育委員会

印刷　株式会社　ヨネヤ
〒400-0031　山梨県甲府市丸の内1-14-6
TEL　055-235-4311

〔表紙〕銚子塚古墳　前方部から後円部を臨む